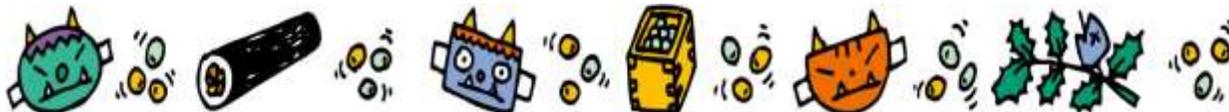




ほけんだより 2月号

2024 社会福祉法人栗石保育園保健室

例年になく雪の少ない暖かい年です。雪遊びを楽しみにしている子どもたちにとっては、少し物足りないかもしれませんね。しかし、インフルエンザやコロナウイルス、ノロウイルスなどの感染性疾患は例年どおり静かに活動しています。予防の一番の基本は、手洗い、うがい、十分な睡眠です。体調がすぐれないときは無理をせず、休息がとれるよう過ごして行きたいですね。



胃腸炎症状後の登園について

- 1 吐き気、嘔吐がなく、ふだんどおりに食事がとれていること
- 2 ウンチの状態が普通便になっていること。(自分でトイレで排便しているお子さんは必ずおうちの方が便の状態を確認していただきたいです。)

すべての医療機関で胃腸炎の検査を行っているわけではありません。また、検査が陰性だったとしても胃腸症状が改善しないまま登園すると子どもさんの体調の回復が長引くだけでなく、集団感染の原因になったりもします。たかが下痢と侮ることなく対処をお願い致します。登園後1度でも嘔吐や下痢の症状が見られた場合はご連絡いたします。



お家でできる塩素系消毒薬の作り方

嘔吐物・便の処理・・・濃度0.1%

作り方・・・水500ml(+塩素系漂白剤10ml(塩素系漂白剤10ccはペットボトルキャップ2杯)

衣類などの消毒・・・濃度0.02%

作り方・・・水2L+塩素系漂白剤10ml(塩素系漂白剤10mlはペットボトルキャップ2杯)

- * 直接触らない・吸い込まないように使い捨て手袋、マスクを着用しましょう。
- * 消毒用アルコールでは菌を取り除くことはできません。
- * スプレーボトルやペットボトルなどに作り置きも可能ですが、消毒効果は時間とともに低下します。また誤飲の可能性があるので保管には注意が必要です。



ノロウイルスに要注意

冬場が増えるノロウイルスは、通常10月から2月ごろまで感染のシーズンが続きます。ウイルスはカキやアサリなどの二枚貝に蓄積されますが、貝類からの感染より、感染者の嘔吐物、排泄物からうつる二次感染が多いようです。

感染すると、激しい下痢や嘔吐、腹痛があり38度以上の発熱を伴うこともあります。今のところ、感染予防のワクチンや治療薬は開発されていないため、症状が出たら水分を補給しながら回復を待つしかありません。予防としては、感染例が報告されている間は二枚貝は過熱して食べる、また食事の際には石けんでよく手を洗うなどです。ノロウイルスを殺すことはできませんが、手から洗い流すことはできます。

感染者は症状が回復しても、その後1週間から1か月間、排泄物とともにウイルスが体外に出るといわれています。発症から1か月ほどは排泄物に触れないように使い捨て手袋を使い、触れる危険性のある場所は、塩素系漂白剤をしみこませた布で拭くようにしましょう。

